

たまがわの風

平成24年2月27日
大阪府立たまがわ高等支援学校
校長室発
NO. 7

校長室からの情報発信を始めるにあたり、いろいろとネーミングを考えていましたが、校歌の2番の一節「♪たまがわの風にのせて伝えよう♪」から引用し「たまがわの風」としました。

平成24年度入学者選抜が実施されました！

1日目はあいにくの雨模様の中、2月23日24日の2日をかけて入学者選抜が行われました。今年は64人の定員に対して、113人の志願者が緊張の中、適性検査(読み・書き・指示理解・作業等の基礎的な分野)と面接に挑戦しました。

1. 77倍という難関となりましたが、日ごろの成果を発揮すべくみなさん頑張ってくれました。

合格者の発表は、3月1日午後2時に正門横の流通サービス棟前で行われます。

4期生の卒業に向けて、「たまがわ新聞」に寄稿しました。

片腕のラグー ーなかまー

校長 鈴木 和夫

私がまだ、ラグビー少年だったころに聞いた話を贈ります。

昔、カナダのナショナルチームに片腕の選手がいました。

ラグビー選手(ラグーと呼びます)としては、パスやキャッチをするにも、タックルをするにも、非常に不利なハンディを背負っていましたが、恐らく血のにじむような努力を重ねた末に、国を代表するチームの選手になったことと思います。

ある国際試合の後、ラグビーのノーサイド精神(試合が終われば敵も味方もない同じラグビーの仲間という考え方)のとおり両チームが、いっしょになって会食がはじまりました。

片腕の彼は、ナイフとフォークが上手に使えないため、食事には手をつけず、にこやかに笑いながら仲間の話に耳を傾けていました。するとある選手が、話を続けながら、手づかみで料理を食べ始めたのです。それを見た他の選手たちも、敵味方なく同じように手づかみで食事をし始めました。

片腕の彼は、この仲間の熱い友情に涙を流しながら、自分の食事を手づかみで口に運んだそうです。

この話を聞いた時、「ともだち」が本当に「たからもの」であること、その「ともだち」の気持ちを考えることができることが、本当に大切なことだと教えられました。

みなさんにとって「たまがわ」で、卒業後「はたらく」ということを目標に、いろいろな得意なことや苦手なことがある中で、多くのことをともに学んできた「ともだち」は、これから一生

の「なかま」です。そしてその「なかま」の気持ちを大切にすることが「やさしさ」です。

これから社会に出ていけば、今まで以上にたくさんの困難が、待ち受けていることと思います。その時にこそ、この「なかま」のことを思い出し、がんばってください。そして、自分が苦しい時にこそ、この「なかま」の気持ちを大切に「やさしい」ところをもって乗り越えてください。

みなさんの活躍をこころから願っています。

もうひとつ、忘れないでください！

「たまがわ」の先生方もみなさんの「なかま」ですよ。